
魔人の麻帆良生活

アヌビス神

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔人の麻帆良生活

【Nコード】

N3926K

【作者名】

アヌビス神

【あらすじ】

遠い昔、魔神の“力”を授かった男がいた、そして彼は魔人になった……。そんな彼が好奇心から、麻帆良に降りたった、彼が何を成すのか、それはまだ誰も知らない。

プロローグ・過去話（前書き）

初投稿＆初小説です、オリ主最強物だと思えます。意見感想等がありましたら、容赦なく書いて下さい、作者が喜びます。

プロローグ・過去話

時は1400年代の日本、異国との貿易が始まった頃だった。とある牢屋の中で一人の青年が、もがき苦しんでいた。

苦しみに耐える内に青年は何故こうなったのか思い出していた。

青年は何てことの無い貿易商の一人息子だった。

しかし、両親ともに人を助ける為に死んでしまった、彼は親戚に引き取られたが良い顔はされ無かった。

そんな時だった、侍らしき男が誰かに斬りかかっているのをみたのは、青年は考えるよりも先に拳を繰り出していた。

我に返ると既に侍は死んでいた、いつの間にかこちらが刀を持っていたらしい、其処からは簡単だった。

彼は直ぐに捕まり、正直に全て話したが殺した相手が悪かった、あの侍はとある大名の次男坊であった。

当然、大名は激

怒し打ち首となり、一時的に独房に幽閉され死を待っていた、しかし、青年に後悔は無かった。両親のように人は助けたのだから。そして同時に死に対しては恐れと安心が半々だった。両親の形見であり独房にも密かに持っている小瓶のおかげで。

この小瓶は両親の貿易品の中にあって、名を“魔神之小瓶”と良い、中に本物の魔神がいるという、珍品だった為、父が譲り受け彼がもらった物であった。

打ち首

まで1週間となった日、彼は小瓶を開けてみようと思った。どうせ死ぬのだから何をしても一緒、なにより本当に魔神がいるのか気になる、と彼は小瓶の蓋を開けた。

その瞬間小瓶から大量の黒い煙が出たと思うと自分の中に吸い込まれて消えてしまった。こんな物かと思つた瞬間、恐ろしい苦痛が彼を襲つた。

そして今に至る、一日目は耐えきつた、二日目は叫び、壁を、地を叩き何とか耐えた、三日目でついに苦痛も限界に達した彼の精神も折れかけていた。

それでも彼は耐えた。そんな三日目の夜、唐突に苦痛が引いていった、そして声が頭の中に響いた。「小僧ウ、凄まじい精神力だなア。」と、

彼は問いかけた。

「アンタ、誰だ？」

「俺はア、魔神、イフリートと呼ばれているウ。」

「魔神！？本当に魔神何て物が封印^{はい}つていたのか！…で、そのイフリートとやらが何で今更出てきたんだ？」

「最初はア、お前の中に入りイ内側から殺そうとしたア、しかし想像以上にイお前の精神力が強クウ、駄目だったア。」

「ああ、それがあの苦しみか、それで？」

「ああ、だから逆にこう思ったのよオ、コイツに俺の力を与えたら面白そうだったなア。」

「は！？なに考えてんだ！？アンタ！」

『考えてもみるオ、魔神である俺が使ってもオ意味の無い破壊のみイ、しかしだア、お前ならまだ意味のオ、意義のある事に“力”を使えるだろうウ。』

「分かったよ、その提案、受けさせてもらう。」

その言葉にイフリートは嬉しそうに言った

『いいなア、さすが俺の見込んだ奴だア。』

『じゃあ、いくぞオ、少し負荷が掛かるがア、気にならんだろう？』

「ああ、あの三日間程のはご免だが」

『ハツハツハア！では授けるぞ？』

その瞬間、身体が暴れだしそんな位の熱い苦痛が彼を襲った、しかしさっきまでの苦痛とは違い身体の奥から生命が溢れていくような不思議な感覚だった。

熱さが収まるとさっきまでの彼では無くなっていた。

身体は2m程に、耳は長く尖り、眼は真紅に染まり、筋肉も元に比べると大きく、かつ絞りこまれていた、しかし其れよりも更に驚くべき変化が彼の身体に出ている。背中からは悪魔の羽と天使の羽が合わさったような奇妙な羽が、そして腕はもう一対生えていた。

「身体が変化する、というのは先に言って貰いたかったよ。」

『ああ、それは済まなかったア。で、どうだア？身体の調子はア？』

「羽も腕も変な感じだが、まあ大丈夫だろう。アンタから受け継いだ知識もある。」

「そうかそうかア。で、これからどうするウ？俺はお前が一人でもオ大丈夫だ、と判断するまでエ、憑いて行くつもりだがア。」

「そうだな、とりあえず世界を廻って人を助けようと思う。其れが俺なりの“力”の使い方だ。」

『良い使い方だと思うぞオ、この俺が認めようウ。』

「ありがとう。さて、さっさとここから出るとするか、そしたら試験飛行して、それでどっかで人の姿に戻らなきゃ。」

そうして彼らは独房を壊して外に出た、見張りはこちらの姿を見るなり逃げ出した。途中で予備の見張りの服を頂戴した、他の牢屋を見て危険そうな奴以外の牢屋を（鍵を）壊して回った。

外に出た、久しぶりの太陽は彼らを暖かく迎えてくれた。そうして彼らは空を行く、彼が初めての光景を楽しんでいると不意にイフリートがこんな事を聞いてきた。

『そついえばア、お前なんて名前だア？』

すると彼は嬉しそうに言った。

「ああ、そついえば、言つて無かったか。俺の名前は苦楽、黒翔苦楽だ、もつとも今じゃ名前の前に“魔人”なんて称号が付くだろうけどな。」

特に称号の部分を楽しげに、そして誇らしげに言った。
イフリートも楽しげに返し、二人して笑った、まだぎこちない空の
散歩を楽しみながら。

この数百年後、魔人は持ち前の好奇心で麻帆良に降りたった、彼が
ここで何をするのか？何を見るのか？それはまだ誰も知らない、何
故なら彼も好奇心で来たのだから、彼自身が思い付いていないから
だ。

余談だがこの時の出来事は「鬼の気まぐれ」事件として少しだけ世
間を騒がせた。

主人公設定・能力（前書き）

二回目です、二回目で設定とかは間違ってますよね？

正直な話、ド素人の自分ではただ覗いただけでも1900も行くと嬉しいもんです。

では意見、感想等がありましたらお願いします。

主人公設定・能力

黒翔 苦楽 (こくしょう くらく)

種族・元人間、魔人 年齢・18 (の時になった)

異名・「魔人」、「救済の魔人」、「異形の魔法使い」

属性・火、風、闇、光

特徴

肌の色は変身しても同じだが、力を全開にしたり、怒りが頂点になると紅く染まる。

変身後の眼の色はメルティのワラキア参照。

顔は悪く無い、美形の部類には入る。髪型は短髪黒髪、主人公ヘア。180cm程。

備考

イフリートの力を持った青年。能力としては伝承通りである。

好むので普段の戦闘では使用しない、ただし身体の一部を煙に変えリーチを伸ばす事ができる。 火炎を吹き人間では即

死の威力、とあり此方も普段は威力を抑えている。

声は雷鳴のように、ともあり気で強化する事により眼に見えない圧を飛ばす、広範囲かつ高威力の“居合い拳”のような物である。 魔法使いとして行動

している時でも、腕も羽も隠していない時があるので「異形」である。

魔法使いとしてはフリーであるが、良く団体を手伝っている。

功績が認められていて、敵視する魔法使いは少ない、が一応狙われ無いように覆面、仮面の類をしている、(信用できる人には見せた)

の為、主に戦闘中に狙われている。

使用魔

法は、詠唱魔法もあるが、自分の魔力を固め属性を付加する、という魔法が得意で魔法の名は神話や、伝説から取るのが多い。

長い時間を技術や能力の向上に費やしたので出来ることである、魔法道具も制作するが殆どが未完成か、趣味で作った物である。

イフリートは百二、三十年程で一人でも大丈夫と判断し、天に昇った。

長い時間を生きて来た為、最初の頃のクールさが消え、正直、ハツチャケてきた上にアニメや漫画にハマリ、ダメな方向に伸びつつある。

- - - - -

セブンス

種族・使い魔、??、化け猫

年齢・20(ぐらいに見える)

異名・「不吉な

黒猫」 属性・闇、氷、風

特徴

苦楽同様、180cm程の細身で、丸眼鏡を掛けている糸目。此方も顔(略)、美形(略)。黒髪でオールバック、後ろで結わいている、

(HELLSINGのウォルター参照)

備考

何時も執事服か、タキシードを着ている。誰に対しても敬語で、苦楽の数百年来の親友であり使い魔。

彼は元々は苦楽に懐いていた黒猫で使い魔にした、喋るし、魔法も使う、万能さん。人間の姿の時は槍(又は形状的に近い物)の名手

である。
う一つ、まったく別の姿もとれる。

実は少し複雑な事情がありも

普段は黒猫の姿で闘うので、異名も「黒猫」だが、人の姿で闘う時は面倒事を避ける為、苦楽同様、此方も仮面などを着ける（素顔は苦楽の信用できる人に見せた）

いつも紳士然としているのに仮面を着ける事、自体は嫌いでは無いみたいである（やはり、子は親に似る、だろうか）

- - - - -

以上、誰かが書いた二人に関しての設定資料、しかしながら書かれていない過去、設定の疑いがあるので注意されたい。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3926k/>

魔人の麻帆良生活

2011年10月6日19時14分発行